

7月に、歌舞伎の「坂東玉三郎」様 (人間国宝)が来寺されました

「こういう自然な庭がいいのです。」と仰っていただき、境内や「珠山千年石の庭」で撮影をされました。大変感激しました。ご訪問は、(株)紫野和久傳様(検索)のご縁によるものであります。(『和楽』10～11月号(小学館)に「坂東玉三郎、海の京都へ」という見出しで写真掲載)その1週間後、境内が鹿の食害に遭い大変困りました。対策とともに、境内の整備に精進させていただき所存です。



山門(仁王門)の屋根瓦葺き替え工事が九月末をもって無事完了しました。総工費は五百万円。収入の内訳は、昨年末よりの御寄進総額が二百七十万円、京都府社寺等文化資料保全補助事業と一部市の補助金が約八十万円、残りは寺院会計となります。

如意寺は、奈良時代からの祈願寺でありますゆえに檀家さんは数軒のみで、堂塔修理などの多くは、古来、地域やご参拝の善男善女の皆様に支えられてまいりました。今回、金剛力士像二体の解体大修理以来、十四年ぶりの勧募のお願いでありましたが、多くの皆様にご協力いただきましたことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

「鬼瓦」およびすべての「平瓦」と「のし瓦」に皆様のご芳名と願意が記されています。ご芳名は末永く山門二階に保存させていただきます。

今後ともご支援ご指導の程どうかよろしく御願ひ申し上げます。

以上、工事完了の御礼並びに御報告とさせていただきます。

平成二十八年十月一日
如意寺 山主

山門(仁王門)の屋根瓦葺き替え工事が無事完了しました



秋の庭

モミジの他にも山法師、萩、ドウダンツツジなどが紅葉し境内を彩ります。



10月…ワレモコウ、フジバカマ、秋丁子、ホトトギス、秋桐、野紺菊、大文字草、秋明菊 他

11月…紅葉、磯菊、山リンドウ、吉祥草、山茶花、薩摩野菊 他



秋の山野草

如意寺の歴史③

前号で述べましたように、平安、鎌倉期は仏教が栄え、寺院も興隆した時期です。この時期、久美浜は後白河法皇の荘園「久美庄」があり、都との交流も盛んでした。平安時代中期の法律書『延喜式』によると、「丹後国と都の間は、上りが七日、下りが四日」とあります。年貢や献上品を運ぶ“上り”には日数を要したのでしょう。このような中で、鎌倉時代、すでに祈願寺であった如意寺は「伏見天皇の勅願寺」となりました。役人を通じて下賜された「如意寺」と墨書・刻字された勅額が残っています(京丹後市指定文化財)。如意寺は、「往時より参籠・参拝する者常に絶えず萬人帰依の祈願寺として今日に至る」と『熊野郡誌』に記されています。



(つづく)

七五三 10月中旬～11月

お子様の健やかな成長をお祈り致します。随時お申し込み下さい。

ご祈願を受けられた方には御札、七五三守の他、千歳飴、風車、記念品などがお受けいただけます。



新春護摩祈願

初詣のご案内

甘酒接待

正月三日間

- *大晦日「除夜の鐘」は、午後11時40分からです。
- *縁起物、御守、干支置物等の授与品も多数あり。
- *駐車場は如意寺駐車場と久美浜小学校グラウンドをご利用下さい。

“ありのまま”に生きるって？ (三) ～「捨てて 捨てて 軽くなろう」～

これは、鎌倉時代の名僧で「捨て^{ひじり}聖」と呼ばれた^{いっぺんしやうじん}一遍上人の言葉です。何のことでしょうか。大掃除？登山？終活？ 捨てればスッキリすることはみな共通していますね。類似表現があります。「手放す」、「今とつながる」、「分別を捨てる」、「ものごとをすでにあるものとして受け入れる」…などなど。

「捨てる」とはどういうことでしょうか。何をどのように捨てるのでしょうか。

私どもの苦しみの多くは、過去の失敗を後悔したり、どうにもならないことを思い悩むことから生じます。「あの時、ああしていれば」、「私はひどい目にあった」などの思いが心を苦しめます。しかし、それはすべて言葉を使った“思考”です。現実にはすでに存在しないことを、人間はあたかも目の前にある大問題のように感じます。過去の記憶や心の傷が、言葉による“思考”となって脳内を暴れまわるのです。これが人間に仕掛けられた“言葉”の一面であり、“罨”です。“思考”は本当の自分ではなくて、本来清らかであるはずの「自己」を邪魔する障害物でもありました。時には、黒い粉塵となって周囲に拡散します。



負の思いが湧き起こったら、「来たか！」と思って目を閉じましょう。そして、思いや言葉を頭から消しましょう。頭を空っぽにして考えないようにするのは、しかし、何も考えないことはむずかしいものです。すぐ何かを考えてしまいます。無理に逆らわず、「私はこんなことを考えているんだなあ」と半ば認めていると、相手にしてもらえなくなった“思考”は力を失い、徐々に消えていきます。仏教でいう「瞑想」も「座禅」もこういう理論で行われます。余計な言葉が消えると、我に返り、「本当の自分」が少しずつ現れます。「私は、今、ここに生きている」、「足や手があって、私の体がここにある」、「“すでにあるもの”としてすべて受け入れよう」、こんな気持ちになってみましょう。すると、体の緊張がほぐれて楽になっていくのがわかるでしょう。心が安らぎ、元気が出てきませんか。生きていることへ感謝し、楽しい気持ちになってきます。笑顔が出て、ますます柔和なお顔になるでしょう。周りの人に対してもやさしい気持ちになれます。「和顔愛語」ですね。きっと、昨日と違う明日がやってきます。

これら一連の作業を若くても自然にやれる人、年齢を重ねても不得意な人。いろいろあって当然です。ぜひ、何度でもトライしてください。これも「悟りの入り口」だなんて、大袈裟なことは言いませんから。(笑)でも本当はそうなのです。

ちなみに、「手放す」というのは、自分のこだわりを捨て、状況に任せてみる、ということです。それは“思考”をやめて、「今、ここに生きていることを、自分の“からだ”の内から感じ取る」気持ちから可能になります。言葉ではありません。言葉で過去を振り返っても問題の解決にはならず、行き過ぎれば「心を病む」ことにもなりかねません。

どんなに明るく幸せそうに見える人でも、悩みのない人はいません。

「捨てて捨てて軽くなる」。そうすれば、心も体も元気になります。

「人生を、よりラクで楽しいもの」にしようではありませんか。



解説1：ビジネスや明日の予定も言葉で考え、過去の資料を参考に明日の作戦を考えますが、これは“思考”ではありません。それがすんだら、また、「今に生きる」感覚にもどりましょう。

解説2：今回のお話も、世界共通の宗教的・心理学的真実で、誰でも入れる「心の平安の入口」です。

子どもの ことは

子どもは誰もユニークです

- 長男(幼児の頃)を自転車に乗せて古い寺の前を通りました。子ども「ここ、昔？」
- 次男(幼児の頃)を自転車に乗せて古い寺の前を通りました。子ども「ここ、地獄？」
- 三男(幼児の頃)と車で三原峠を走りました。子ども「これ、うなぎ道路？」